

水銀条約外交会議に関連する 熊本県の取組みについて

熊本県環境生活部 政策審議監 末廣 正男

H24.10.13

「第2回水銀条約について考える会」資料
【熊本県環境生活部】

～ 目 次 ～

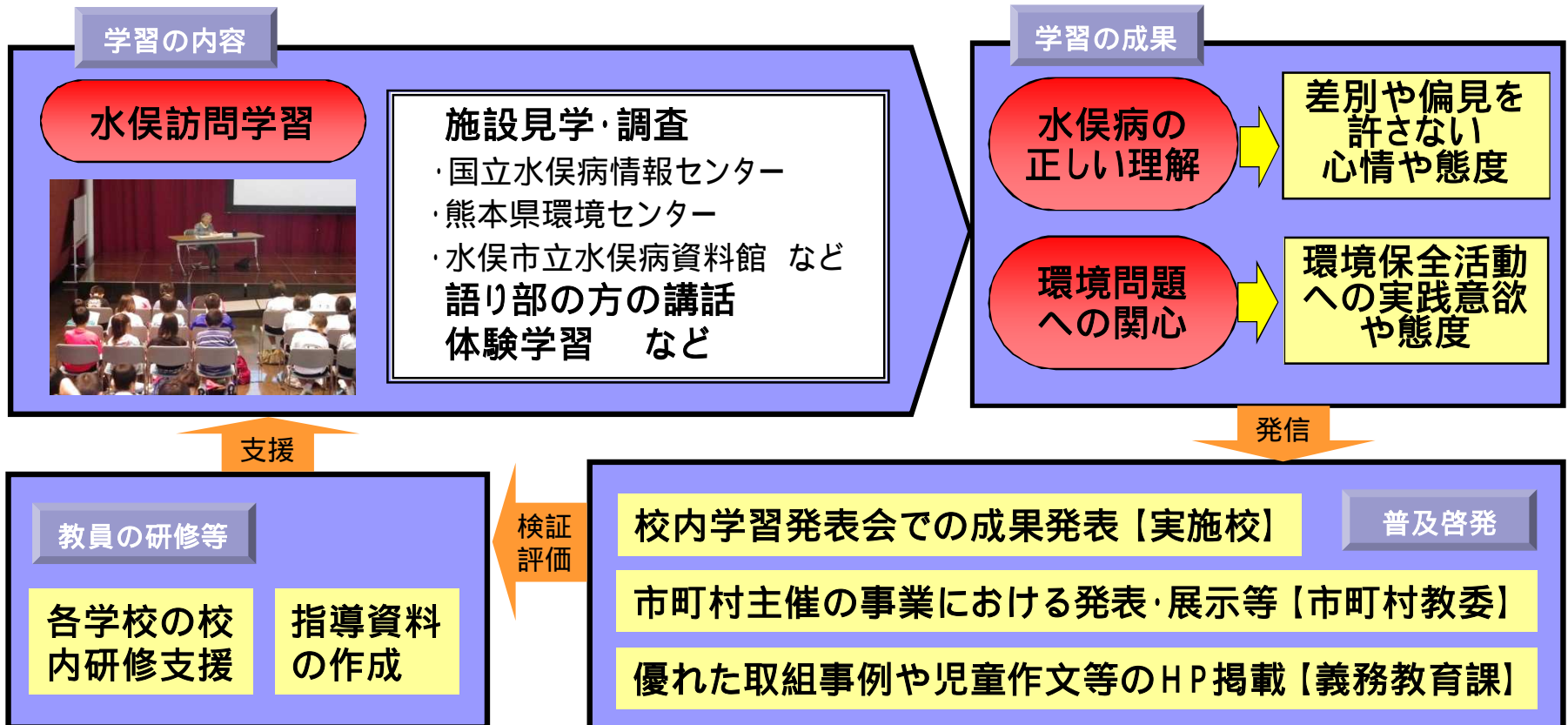
- 1 水俣病に関する情報発信の取組状況について
- 2 水銀条約外交会議を通じた情報発信について

1 - 1 水俣病に関する情報発信の取組状況

(1) 児童の水俣訪問

県内全ての小学5年生が水俣を訪問し学習する「水俣に学ぶ肥後っ子教室事業」を実施（H23実績：393校、17,284人）

事業の仕組み



1 - 2 水俣病に関する情報発信の取組状況

(2) 児童生徒・教職員への啓発

胎児性患者の方々が学校を訪問して、児童生徒へ水俣病のことや環境の大切さを学ぶ授業を実施（H23実績：22校、約3,400人）

児童生徒向けの水俣病の学習リーフレットの作成と配付

（H23実績：3000部作成）

教職員を対象とした啓発研修の実施

（H23実績：11回、約620人）

(3) 県民への啓発

くまもと県民交流館パレアに水俣病学習コーナーを設置（H19～）



学校訪問の様子

1 - 3 水俣病に関する情報発信の取組状況

(4) 環境に関する先進事例の発信等

地域全体を「環境をテーマとしたミュージアム」として位置付け、地域資源の磨き上げ、環境に関する先進的事例や水俣病の教訓と伝承の発信、それらに必要とされる人材育成など、様々な施策を一体的に実施する「水俣・芦北地域環境フィールドミュージアム事業」を実施

事業概要

環境フィールドミュージアム運営の支援
総合コーディネーター設置

- ・環境学習旅行等の誘致活動等
(H23旅行実績: 23校、3,425人)
 - ・人材育成(H23研修実績: 6回、81人)
 - ・コンテンツ発掘育成
 - ・水俣病教訓発信
- 地域案内情報発信



環境学習で水俣市を訪問している子供たち

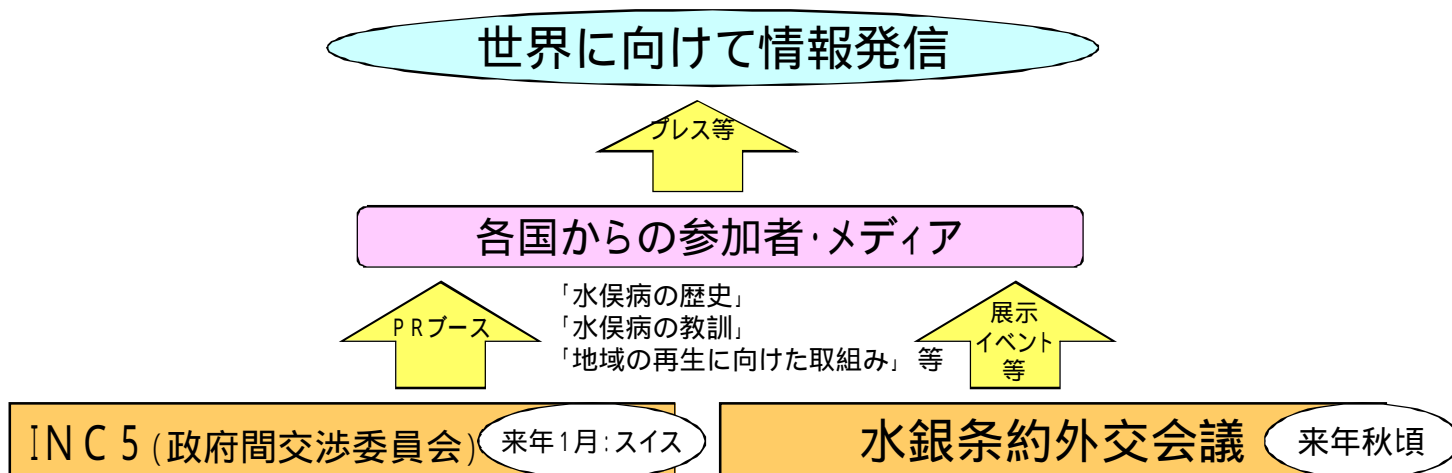
2 - 1 水銀条約外交会議を通じた情報発信

(1) 水俣病に関する情報を世界に向けて発信する機会

この会議には、約120ヶ国から約600人が参加予定。熊本市、水俣市の開催でUNEP(国連環境計画)と調整中。

自国で大きな影響力を持つ大臣等の閣僚レベルも参加し、また、会議の取材のために海外から大勢のメディアも訪れることから、水俣病に関する情報を世界に向けて発信するまたとない機会。

この機会を捉えて、水俣病と同様の健康被害や環境破壊が世界で繰り返されることのないよう、水俣病の歴史や教訓及び地域の再生に向けた取組み等の情報を世界に向けて発信する意義は大きい。



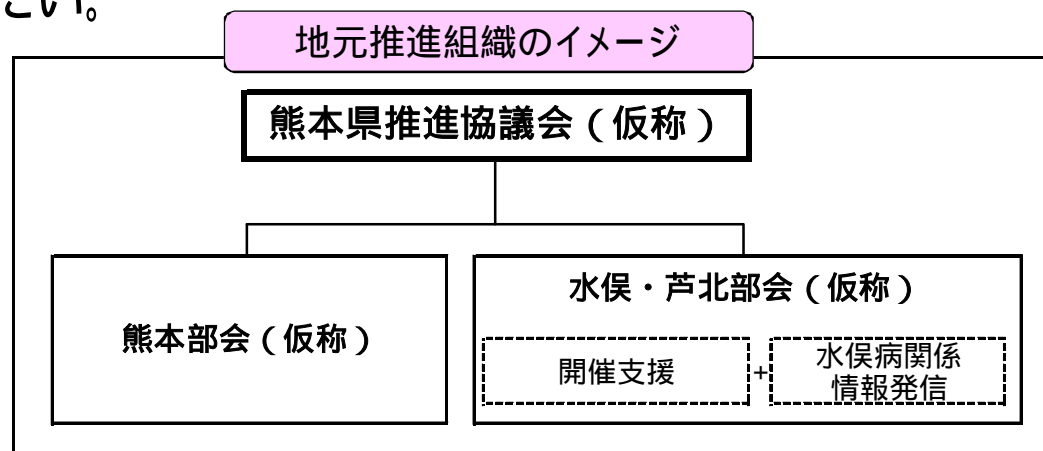
2 - 2 水銀条約外交会議を通じた情報発信

(2) 情報発信等についての今後の流れ

水銀条約外交会議の開催地として必要な支援を行うとともに、未だに続く水俣病問題の歴史や教訓等に関する情報を世界に向けて発信するための地元推進組織として、知事を会長とし、関係市町・団体に構成する「推進協議会」を設置予定。

協議会には、情報発信の内容や方法及び会議の開催支援について具体的に検討を行う「部会」を置く。

水俣病に関する情報発信や水俣市での開催行事の運営等については、「水俣・芦北部会」において、地元の方々のご意見を汲み取りながら、今後、準備を進めていきたい。



ご清聴ありがとうございました。